



オーラはヴェネツィア音楽祭で「ボエーム」を発表することになり、同曲でカンタエウロパ(Cantaeuropa)に参加し、外国にも行くこととなった。それは多くのイタリア人歌手が参加している、エツィオ・ラダエリによって企画された“ヨーロッパ規模のカンタジーロ”という夏の音楽祭のひとつであった。ヴェネツィアを8月27日に出発し、ヨーロッパの主要都市を回ってロシアまで行った後、9月11日にサンレモで終わるツアーであった。オーラは「ボエーム」だけでなく「アネマ・エ・コーレ」も歌い、未発表の「心に雨が降る(Dommage dommage)」も披露した。その曲は後に、カンツォネッシマ1966年版のスカーラ・レアーレ(意:本当の階段/王者たる階段)へと導くことになったのである。スカーラ・レアーレでは、オーラはあるチームのキャプテンとなり、そのチームには、ジョニー・ドレルリやトニー・デル・モナコや「慕情(L'amore è una cosa meravigliosa)」を発表したばかりだったマッシモ・ラニエリがいた。このチームは、有名な楽曲「夜空のトランペット(Il silenzio)」を擁するニニ・ロッソのチームと対戦して、最初の回を通過したのだが、「夜のアコーディオン(La fisarmonica)」を歌ったジャンニ・モランディがキャプテンをつとめるチームに負けてしまう。

12月20日にオーラは19才になり、世界中からプレゼントが届く。カラブリアの羊飼いたちは、オーラにまさに羊の皮のジャケットを贈っていたのである。しかしながら、この年の終わりには翌年のサンレモ音楽祭に出場しないことに決めて

いる。オーラが選んだ曲、パオロ・コンテの「愛の物語(Una storia d'amore)」が、選考委員会によって不採用となったのだ。その曲はカテリーナ・カセリと一緒に歌われるはずだった。代わりの曲として「涙に咲く花(L'immensità)」が提示されたが、オーラは身を退くことを選んだのだ。そしてその楽曲「愛の物語」を、その翌年に『Giovani(意:若者たち)』という番組の中で発表している。それは若者の世界についてをテーマにした、15分間の新しい番組であった。そしてカンヌ国際音楽産業見本市MIDEMでイタリアを代表し、見事に雪辱を果たしている。

オーラは1967年のサンレモ音楽祭不参加で空いた期間を利用して、コルティーナ(注:ヴェネト州ドロミティ山麓の町)で短いヴァカンスを楽しんだ後、世界ツアーに出発した。オーラはブラジル滞在中、優れた外国人女性歌手に与えられるシコ・ヴィオラ(Chico Viola)賞を受け取っている。



帰国した彼女を待っていたのは、第4回夏のディスクフェスティバルへの参加である。オーラの選んだ曲は「ローザ・ネーラ[愛の黒バラ](La rosa nera)」だった。R & B風のこの曲は、聴く者を何か落ち着いた気分にした。なぜ“夜の薔薇は決して黒くならない”のか?(注:歌詞の一部)オーラは作者パンゼリの説明を借りて答えている。パンゼリによれば、世界には悪(戦争、憎しみ、美しい自然の破壊など)が存在しているにもかかわらず、希望が死ぬことは決してない。まさに薔薇の花のように。夜の帳が下りて、あらゆるものが暗闇に包まれたとしても、

薔薇はその色を変えることは決してないという。フランス語盤とスペイン語盤でも、このメッセージはまったく同じように繰り返されている。何が起ころうとも“太陽は沈んでも薔薇を咲かせるだろう”もしくは“静かな夜、黒い薔薇はその香りで私を和ませてくれる”と。つまり希望と楽観主義を奨励することがこの曲のテーマなのである。

夏のディスクでは参加曲50曲弱が競い合い、4月21日から連日ラジオで放送され、テレビ番組内でも歌われた。視聴者のハガキによる投票、そして委員による審査によって、決勝に進出できる20曲が選ばれ、決勝は6月8日から10日にかけてサン＝ヴァンサン(注:北イタリア、ヴァッレ・ダオスタ州の町)で開催された。「ローザ・ネーラ」は決勝出場枠の4番目で予選を通過し、6月9日のショーではトップとなり、10日の最終夜、第2位となった。この曲はヒットチャートのトップに駆け上がり、さらにはオーラに第3回ヴェネツィア音楽祭での大成功をもたらすことになる。

週刊誌は、オーラの意外な趣味をスクープした。それは、チェット・ヴェロネーゼに自分の家を建てる計画を実現させることだった。父親の監督の下で、オーラは自分自身のデザインに基づいた見事な邸宅を建築しているところだったのである。各週刊誌はその記事に“ジリオラの夢の家”とか“ジリオラ・チンクェッティ、歌う建築家”といった見出しをつけている。

オーラの人気はますます上昇していった。テレビ視聴者が最も好きな歌手についてのランキング調査では、オーラはミーナ、ジャンニ・モランディ、リタ・パヴォーネに次いで第4位を獲得している。その下は、ジョニー・ドレルリ、アドリアーノ・チェレンターノと続いていた。オーラは、このドレルリと一緒に7月からラジオ番組『Gran Varietà(意:ビッグ・バラエティ)』に出演し、番組主題歌の「小さな町(Piccola città)」も歌った。この曲は後にパルティティッシマ(Partitissima: